

令和2年2月19日（水）19:00～21:00

場所：ウイステリアホール

## 議 事 録

協議会委員 中鹿 直樹 委員（立命館大学准教授）、中鹿 彰 委員（追手門学院大学教授）  
片岡 誠 委員（本校後援会会長）、大西 哲 委員（保護者・本校振興会）、  
長田 佳久 委員（本校後援会副会長）、欠席：野村 明仁 委員（茨木市立西中学校長）、  
事務局 下本 隆二（准校長）、島田 一（教頭）、竹内 秀行（首席）、浅原 幸三（主査）  
江菅 純一（教務）、中村 充希（生徒）、村上 拓哉（修学） 以上、教員

### 学校からの説明

1. 准校長より
  - ・学校の近況について
2. 授業アンケートについて（7月、12月に実施）
  - ・昨年度よりもやや下がっているが、数値的には高い。
3. 学校教育自己診断について（12月に実施）
  - ・「学校に行くのが楽しい」（2.91pt）、「授業はわかりやすく楽しい」（3.00pt）、「子どもは授業が分かりやすく楽しいと言っている」（2.93pt）が改善されたとはいえまだ数値は低い。授業見学に行くと、先生方はICTを使ったりグループ学習をしたりするなど創意工夫をしている。課題として、生徒が質問をしやすいようにフォローする必要がある。
  - ・保護者の授業参観や学校行事への参加率が低いので、来年度は授業参観を土曜日に実施する。
  - ・今年度は、各分掌・学年で分析し、次年度に向けての総括をした。
4. 平成31年度学校評価（案）について
  - ・准校長より、今年度の学校評価（案）について説明。
  - ・学校評価（案）について承認された。
5. 令和2年度学校経営計画（案）について
  - ・准校長より、今年度との変更点を中心に説明。
  - ・学校経営計画（案）の「めざす学校像」「中期的目標」について承認された。
6. 全日制部会方針（令和2年度学校経営計画（案））について
7. その他
  - ・来年度の学校運営協議会について

### 質疑応答

- ・授業アンケートは授業ごとにとっているのか？  
⇒授業ごとにとっている。各教員の数値と全教員の平均をフィードバックしている。3人以上いる教科は、教科の平均もフィードバックしている。

- ・学校経営計画の少人数習熟度別指導が令和2年度には書かれていないが、なくなるのか。  
⇒来年度も数学・英語に関しては基礎・標準に分かれて行う。
- ・学校教育自己診断「学校に行くのが楽しい」64.4%は、全日制（98%）と比べて低いが、他校と比べてどうなのか。  
⇒全日制の98%は特別高い。他校のデータは現在調べていないので、調べておく。  
(他の府立定時制高校は51.2%~71.4%であった。本校は平均的な値であることがわかった)
- ・学校教育自己診断の(教員)「適切な校務の分担がなされ教員が意欲的に取り組める環境である」が50.0%と数値が低い。  
⇒教員が気持ちよく働かないと生徒たちにいい影響を与えられない。
- ・時間外勤務の220h以内の目標設定は実態にあっているのか。  
⇒時間外勤務時間が多い人はいるので個別に対応が必要。学校全体として今年度よりも減らすような目標にしている。
- ・中退率の目標を全国平均9.3%以下としているが、大阪の平均はどうなのか、また9.3%以下という数値は妥当か。  
⇒大阪の中退率は全国平均よりも高いが、目標は全国平均の中退率にした。
- ・中退率を下げるための策はあるのか。  
⇒特効薬はない。生徒が学校に足を向けるようにしたい。わかる授業、楽しい授業で達成感をもたせ、行事等を通じて自己肯定感を上げられるように取り組んでいきたい。
- ・保護者の面談には100%来られているのか。  
⇒担任から電話連絡はよくしている。面談は成績不振時や4月の参観時に行っている。学年の方針で、夏休み中に全保護者と面談した学年もある。
- ・給食の喫食率が下がっている。喫食率があげるようにしてほしい。  
⇒295円での給食は安いと思う。今年度から電子レンジを導入し、生徒が利用できるようにした。

#### 学校運営協議員からの提言

- ・生徒に、学校に行くのが楽しいと思うこと、いやだと思うことを、アンケートや聞き取りを行って調べてはどうか。
- ・自分の特長がわかると学校が続くのではないか。自分の特長が見つかる具体的な方法を考えてみてはどうか。
- ・学校に行くのが楽しいということと授業がよく分かるということは密接な関係がある。
- ・外国にルーツがある生徒に対して日本語教育の充実が必要である。夜間中学校との連携も考えてみてはどうか。
- ・「学校が楽しい」は原因ではなく結果である。うまくいったから楽しいのであって、楽しいから今日は学校に来たのではない。そこを見誤らない方がいい。
- ・管理職と教員との面談を頻繁に行い、コミュニケーションを図ることによって、学校運営自体がよくなるのではないか。
- ・学校教育自己診断の送付のタイミングで電話連絡を行えば回収率が高くなる(大学で実証済)。
- ・アンケートについて保護者は現場を見ていないので回答に困ることがある。それぞれの質問項目容に具体的な例を記載してあれば回答しやすいのではないか。